

起業者精神・科学知識・創造性



22～23日の国際大会に向け準備を進める伏見工生徒ら
(京都市伏見区・伏見工)

伏見工生、世界の若者と競う

22日から大会 ネット参加、準備に熱

世界の青少年が起業者精神や科学知識、創造性などを競い合う国際大会「グローバル・エンタープライズ・チャレンジ2009」の日本代表に、伏見工（京都市伏見区）システム工学科工学探究コースのチームが選ばれた。06年以来2回目の出場で、22～23日に実施される大会に向け、準備に熱が入っている。

大会は英国行政機関が18歳以下を対象に開催しており、今回は14カ国の代表が参加する。

大会では米航空宇宙局の科学技術者や宇宙飛行士が、社会的・科学的な課題を出題。日本時間22日午後8時に大会ホームページ上で公開され、各チームは24時間以内にプランを練り上げ、現地がインターネット経由で資料提出と口頭発表に挑戦する。

同様の条件で7日に行われた国内予選には、伏見工A、B2チ

ームを含む全国8チームが参加した。課題は「異分野の技術を活用し経営も成り立つ、新しい農業の事業モデルを示せ」。伏見工Aチームは自給率の低い大豆の栽培を通じて企業が環境に配慮した農業に参入する計画を発表し、最優秀賞を獲得した。

国際大会では、資料や発表はすべて英語化が必要。発表は3分、資料は2ページでスライドは4枚以内と時間と条件が限られ、生徒たちは効率よく仕事を進めるための作業分担や、水利用など具体性のあるテーマの事前学習、発表の構成などを議論。インターネット経由で発表する本

番にむけ、意欲を高める。

チームの3年、高木大地君（17）は「悔いと決意を新たにしたい」と話

し、同じく3年の横木相汰君（17）は「やるからには優勝したい」と決意を新たにしていた。

（石川健一郎）

平成21年6月19日(金)
京都新聞(朝刊・夕刊)